

審議会等の議事の要旨（要点）

会議名称	平成 30 年度第 2 回立川市交通結節推進協議会
開催日時	平成 30 年 11 月 29 日（木）午後 3 時～午後 4 時 3 0 分
開催場所	立川市女性総合センターアイム 5 階第 3 学習室
次第	1. 開 会 2. 議 事 （1）立川ターミナルの整備に向けた計画イメージについて （2）実地踏査の結果概要について （3）立川ターミナル案内サイン計画の検討について 3. その他 4. 閉 会
配布資料	資料 1：立川ターミナルの整備に向けた計画イメージ 資料 2：実地踏査の結果概要 資料 3：立川ターミナル案内サイン計画の検討
出席者	[委員] 小早川悟会長、稲垣具志副会長 小倉秀夫委員、島田尚利委員、新井淳一委員（代理 宮迫氏）、田崎達久委員、依田修委員（代理 地宗氏）、藤原廣彦委員、原清委員、関達夫委員、蛭間浩之委員、青山伸也委員、伊藤正人委員、村本慎治委員、菊地英一委員、鈴木一男委員、堀川誠司委員（代理 熊井氏）、若林勝司委員、川口哲生委員 [事務局] 浅見知明（交通対策課長）、石堂修（交通企画係長）、松崎達矢（交通企画係主任）、伊藤和香子（交通企画係主任）
公開及び非公開	公開
傍聴者数	無し
会議結果	1. 開 会 2. 議 事 （1）立川ターミナルの整備に向けた計画イメージについて事務局より説明を行い、質疑応答を行った。 <会長> 計画の位置付けを含め、整備計画等への流れ等の説明があった。ご意見があればお願いしたい。 <全委員> 意見なし。 （2）実地踏査の結果概要について事務局より説明を行い、質疑応答を行った。

<会長>

様々な利用者の方に計4回、現地にて既存サイン等の確認を行った。実地踏査に同行したが、私たちでは気づくことのできない視点で様々な意見をいただいた。これらの意見が今後のサイン計画の作成に考慮される。調査結果について、ご意見があればお願いしたい。

<副会長>

今回の実地踏査は様々な利用者が参加し、いろいろな視点でご意見をいただいた。

ロービジョン者については、普段から移動時にサインを活用している方が参加したことで、妥当な評価をいただいたと感じている。

一般的に、障害者への対応として、「音のみ」「点字のみ」など「何か一つだけに頼れば良い」という対応は良くないと言われている。今回の実地踏査では、色覚関係者やその他の障害者など様々な利用者が参加したことで、多角的に評価できたと感じている。

これらの視点を踏まえ、全ての意見に対応することは物理的に難しいかもしれないが、何か一つに依存した案内はしないという整理ができたのではないか。

(3) 立川ターミナル案内サイン計画の検討について、事務局より説明を行い、質疑応答を行った。

<委員>

ナンバリングサインだが、あくまでも位置を示すものか、それとも乗降施設等にとまなう機能等もあわせて示すものか、どのように整理しているか。

<事務局>

これまで、位置と機能を同時に表すことを想定していたが、実地踏査において、「複雑にするとわかりづらい」「表現の意味を追加で記載する必要がある」などの意見をいただいた。目的は簡略化した記号等で位置情報を示すことのため、シンプルに位置のみを示す形で統一したい。

<委員>

ナンバリングサインについては、都内の地下鉄などでは目にすることも多く利用するが、多摩地域においては馴染みがないような印象である。多摩地域で採用しているところはあるか。また、利用者に浸透させることはできるのか。

<事務局>

ターミナルサインを検討している八王子では、ナンバリングの予

定はないようだ。

利用者が慣れるまでに時間がかかると想定されるが、サイン設置にあわせてナンバリングの位置情報を記載した配布用マップの作成も考えている。

<委員>

多摩モノレールでも駅ナンバリングを採用しているが、浸透度はどうか。

<委員>

始まったばかりのため、浸透しているとはいえないが、徐々に浸透すると考えている。

<会長>

ナンバリングサインを採用した旨を、市のホームページなどで周知することも一つの手段かもしれない。

<委員>

駅名標の位置サインについては、表札と同様の役割と考えており、他の駅でも出口名を表記していないため、立川ターミナルにおいても同様に考えている。

<事務局>

立川駅には複数の出入口と改札口があり、その違いを表すため、出入口の表記が必要と考えたが、交通結節点の名称も踏まえ、改札口名称での誘導方法の検討を進めている。

<委員>

多摩モノレールは、今後は社章でなく、駅ナンバリングを採用していく方向か。

<委員>

立川駅周辺にモノレール駅が2駅あり、区別する必要があると考えている。社内でも駅ナンバリングを採用する方向で表示方法等を含め調整中である。

<副会長>

天候の影響もあるが、ペDESTリアンデッキ上の光等を遮るものがない明るい場所と、駅舎下部などの暗い場所では、明るさが異なる。その違いへの対応はどうか。また、サインが内照式かどうかという点がある。他市で、多言語化した際、内照式から照明がないタイプに変更された事例があるが、その影響で視認しづらくなる利用者がいることも考えられる。費用の問題もあるが、照明の有無等についても考えていく必要があるのでは。

<事務局>

既存サインで内照式のものは、原則、現状維持を考えている。ただし、新設するサインについては、電気等の関連もあり、設置位置

	<p>の状況や費用を踏まえ検討していきたい。</p> <p><副会長></p> <p>内照式については顕示性が高いという意見がある。既存の内照式については慎重に検討して欲しいと思う。</p> <p><事務局></p> <p>実地踏査でも照明についての意見があり、それを踏まえ検討していきたい。</p> <p><委員></p> <p>立川北駅の下部は暗いという意見があるが、道路の基準で定められた照度は保っている。ただ、周囲の明るさとの関係から暗い印象となっている。</p> <p>サインの見え方と光の強さの関係については、周辺の光によって感じ方が異なるため調整は難しい。特に夜間での見え方については、設置位置の照明状況を踏まえながら照度を検討していくことになるのでは。</p> <p><事務局></p> <p>様々な設置場所の状況や明るさ等も踏まえ、明るい白色をベース地にしている。</p> <p><会長></p> <p>照明等については、今後の検討課題として欲しい。</p> <p>3. その他</p> <p><事務局></p> <p>次回の開催は2月1日を予定している。実施するサイン及びスケジュールを事業者間で調整し、各計画の案を提示したい。</p> <p>4. 閉 会</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
担当	まちづくり部交通対策課交通企画係 電話 042-523-2111 (2279)